

【評価実施概要】

事業所番号	170101018		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム舞		
所在地	〒064-0925 札幌市中央区南25条西13丁目1番22号 (電話) 011-520-5802・5803		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年1月4日

【情報提供票より】(H20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 0.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階 建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	有(64,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,433 円	月額 43,000 円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	
年齢	平均 87 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛全会 愛全病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームは藻岩山麓の豊かな自然に恵まれた郊外にあり、近隣にはスーパー・商店・飲食店があり、生活の利便性が確保されている。玄関前は広く、周囲には菜園や花壇がある。室内は明るく清潔で、利用者の安全を配慮した造りになっている。母体医療法人が関連施設を多数有することから、医療・研修等に於いて連携協力が行われており、信頼がもてる。地域の催し事やホーム行事では、適時に戸外に出かけ、利用者は楽しみながら安心のある生活を送っている。職員は笑顔で優しく利用者と共に過ごし、質の高いケアを行って、家族や地域の人々の信頼を得ている。明るく安らぎのあるホームである。</p>
---

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議を活かした取り組みについては、評価への取り組み状況について公表し、話し合い検討している。・運営に関する家族意見の反映については、玄関入り口に意見箱を設置し改善を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員がサービス評価の意義を理解し、自己評価作成に参加し、外部評価結果を踏まえた改善計画を作成し、具体的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、職員、家族、地域代表、包括センター職員参加の下、定期的開催されている。ホーム運営、行事報告、防災訓練、評価結果報告等について協議され、そこでの意見はサービスの質の向上に具体化されるように取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族来訪時には意見を聞くようにしており、毎年実施している無記名による家族アンケート調査の結果についても参考にしている。玄関入り口には意見箱を設置しており、意見があった場合は内容を検討し、速やかに回答を行うよう取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、夏祭り、小学校ふれあいバザー、市電フェスティバル、リサイクル活動など、地域行事に積極的に参加している。地域の人々は気軽にホームへ訪問し、避難道路確保の為に除雪協力を行う等、地域との連携は深いものがある。</p>

## 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を確認し、「利用者の権利を守り、ぬくもりと安らぎのある生活が保たれるよう」事業所独自の理念をつくりあげ、掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はミーティングやカンファレンスの中で理念について話し合い、日々の業務の中で互いに確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、夏祭り、小学校ふれあいバザー、市電フェスティバル、リサイクル活動等、地域行事に積極的に参加している。ホーム行事にも地域の人々の参加があり、除雪協力、花壇の手入れ等日常的に地域の人々との交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がサービス評価の意義を理解し、自己評価作成に参加し、外部評価結果を踏まえた改善計画を作成し、具体的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は家族、地域代表、地域包括センター職員等参加の下に定期的に開催、記録されている。ホーム運営、行事説明、外部評価結果報告、家族アンケート報告等について協議され、会議での意見はサービスの向上に活かされている。</p>		<p>運営推進会議においてとりあげられた検討事項は、取り組み状況を報告し、意見を反映するように行っているが、更なる充実を目指しているので期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>札幌市管理者会議・札幌市グループホーム協議会・中央区管理者連絡会などに参加して情報を共有し、市町村と共にサービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2か月に1度、ユニット毎に「さくらたより」「ふじのはなたより」を家族に送付して、利用者の暮らしぶりや、行事、職員異動について報告している。金銭関係については会計明細書と領収書を添えて報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時には意見や要望を聞き、毎年無記名の家族アンケートをとり、ホーム運営に反映させている。玄関入り口に苦情箱を設置しており、利用者居室にも意見が出やすいように意見用紙を置く等して配慮している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を最小限度に抑えるよう努力し職員交代の際は、引継ぎの時間を十分にとり利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部、外部研修に参加するよう取り計らっている。事業所内に教育委員会を設立し、ケアマニュアルの作成と内部研修を定期的に行っている。全体カンファレンスを3カ月に1度設け研修報告を行い、研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営母体の医療法人愛全会は16のグループホームを運営しており、人事交流・研修会、相互訪問が行われている。運営母体以外の同業者との交流もあり、サービスの質の向上にとり組んでいる。</p>		
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始前に利用者・家族と十分話し合い、ホーム見学、ホームお茶会参加、宿泊などの経験を通して、徐々に馴染めるよう配慮しながら行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と喜びや悲しみを共有し、人生の先輩として尊敬の念をもち、支えあう関係を築いている。得意分野では力を発揮してもらうための場面設定に配慮と工夫を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の過去の生活暦を踏まえて、利用者の話や家族の情報をもとに、一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の意見を聴き計画を作成している。日々の生活内容や職員の気付きノートからも意向を汲み取り、全スタッフによる意見交換を行い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に3ヵ月毎に見直しを行っているが、状況の変化や本人・家族の要望を取り入れて随時見直しを行っている。医師、看護師とも意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。</p>		
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、病院通院、理美容室等への同行・送迎など柔軟に対応して支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業主体が医療法人であり、日常健康管理は病院医師による月2回の訪問診療・週1回の訪問看護に委ねており、24時間体制で連絡体制がとられている。利用者希望のかかりつけ医については、通院送迎する等して常に適切な医療が受けられるように支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用契約時の「重要事項説明書」(契約時の補足書類)に、重度化した場合の対応指針が明記されており、関係者全員で方針を確認し共有している。状況変化ある毎に、家族に伝え、医師と連絡をとり、話し合いを行い支援している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員のミーティング時には、利用者の個人名ではなく、部屋番号で行ない、個人情報記載書類等の保管には細心の注意が払われている。職員の言動は一人ひとりの尊厳が保たれるように、常日頃から配慮して行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にして、その人らしい暮らしができるように、体調に配慮しながら、希望に添えるようにして支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談し好みも取り入れて献立を立て、買い物・調理・盛り付け・片付けを共に行っている。音楽を流し、雰囲気づくりにも配慮しており、職員も一緒に食事を摂り食事が楽しめるように行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している	入浴は一人ひとりの体調に配慮しながら、その都度希望を確認しながら行っている。入浴が楽しめるように、時には入浴剤や薔薇の花びら等で変化をつけ、音楽をかける等工夫して楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意なこと・興味もっていることを把握して場面設定し、利用者が、清掃、調理、縫い物、文字書き、畑作業などに力が発揮できるように配慮している。故郷や地方へのバスツアーも行われ、喜びや張り合いのある生活が送られるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、体調、希望に合わせて、散歩、ドライブ、外食、畑作業、日光浴などを行ない、心身の活性化に繋げている。歩行困難な利用者には車椅子を利用して支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はしているが、地域がら必要と考え家族に了解を得ている。利用者が外出したい時にはさりげなく声掛けして外出の支援を行い、面会は常時受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成し、防火訓練を消防署協力の下、年2回行っている。冬期間は近隣の人の除雪協力を得て、避難通路の確保が行われている。運営推進会議を通して、更に地域の人々との連携を深めることを検討している。</p>		<p>地域の人々との協力関係はなされているが、運営推進会議を通して、災害時にも協力が得られるよう働きかけているので期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士管理の下、摂取カロリー、栄養バランスが考慮され、一人ひとりに合わせた献立が作成されている。水分摂取については、チェック表を参考にし、情報を共有して確認し、必要量が確保されるよう行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間、キッチン、トイレ、浴室など共有空間は利用者の安全や動線に配慮した造りになっている。随所に絵画がかけられ、ホールには椅子がそれとなく置かれている等、心休まる雰囲気がある。職員は建物の採光、臭気温湿度、換気には十分配慮して、居心地よく過ごせるよう行っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は夫々壁紙の色が異なり、特徴を備えており、床は滑りづらい材質のフローリングである。馴染みの家具やベット、家族写真や趣味の物、装飾品などを持ち込み、居心地よく落ち着いて過ごせるように工夫している。</p>		

 は、重点項目。